

「イノベーション探究Ⅰ」～地域再発見プログラム～第7回

1. 実施日

令和3年7月10日（土）1・2限

2. 場所

1棟多目的室

3. 対象

グローバル科1年生（6・7組）

4. 講師

鳥羽高等学校 教諭 6組 山中 脩平 中村 啓介
7組 金本 瑞穂 矢野 和久

TA：本校グローバル科卒業生の大学生6名

5. 内容

チームで協働してリサーチクエスチョンを立てる

（1）事前準備

本日 TA として入ってもらい、本校グローバル科卒業生6名に前回までの流れと以下の二点を説明・依頼する。

- ① 研究テーマをリサーチクエスチョンに落とし込む際の「言葉の絞り」をアドバイスして欲しい。
- ② 議論に躓いているチームには、過去の経験を語ってヒントを与えて欲しい。

（2）説明と振り返り

- ① 教員が本時の流れを説明する。
- ② 本日の TA であるグローバル科卒業生6名が自己紹介をする。

（3）リサーチクエスチョンを立てる

- ① チームの研究テーマを絞り、リサーチクエスチョンに完成させる。
- ② 研究計画書を通じて研究の動機・課題の背景を、話し合いによって明らかにし、文章または箇条書きにする。
- ③ 研究計画書を通じて、チームの探究の骨格を明らかにする。

（4）全体の講評と個別のアドバイス

- ① 教員および TA が、気づいたことを全体の場で講評する。
- ② 「テーマ」から「リサーチクエスチョン」への運び方に留意し、個々のチームについてアドバイスを重ねていく。
- ③ リサーチクエスチョンが完成したチームから TA と教員が見て修正のためのアドバイスをする。

(5) まとめと次回以降の予告

- ① 次回からは3年グローバル科の生徒からアドバイスを受け、発表構想会・スライド作成に進んでいく。

6. 学び

4人の教員と6名のTAにそれぞれ担当チームを割り振って進めたため、前回よりつまづくチームへのアドバイスをきちんと行うことができた。また、タブレットを用いてFormsアンケートを作成し、授業内で活動する様子も見られ、ICT活用の有用性を確認することができた。

7. 次回への課題

事後にTAから以下のような指摘と提案を受けた。

- ア 「京の智」に結びつけることに苦労しているチームがある。
- イ 推進力のある生徒がいるグループと、そうでないグループの温度差が大きい。
- オ タブレットを用いることで利便性や可能性も広がるが、じっくり話し合う作業が疎かになっている印象があった。

8. 授業の振り返り

機材を用いて新しい技術を使うことに関しては創造性を感じた。一方、ICT機器のような利便性の高い道具を用いつつ「対話的で深い学び」を確保することが必要である。